

了寛紀明さん 北海道文化財保護功労者表彰を受賞 清田区の郷土史研究が高く評価される

あしりべつ郷土館企画委員で郷土史研究家の了寛紀明さん（清田区里塚在住）が、令和7年度の北海道文化財保護功労者表彰を受賞しました。表彰式が2025年（令和7年）11月7日、道立道民活動センター「かでる2・7」で行われました。

この賞は、北海道文化財保護協会が、道内の文化財の保護・普及に関し、多年にわたり実践功労のあった個人または団体に贈られるものです。昭和40年（1965年）から始まった大変名誉ある表彰です。

了寛さんは函館市生まれで、長年、札幌市内の小学校教員として勤務し、清田小学校と大谷地小学校の校長を経て2004年に退職。

地域の郷土史研究を始めたのは平成3年（1991年）、小野幌小学校（厚別区）の100周年事業に関わったことからです。地域の人からたくさんの昔の生活道具や農機具が寄贈され、これがきっかけとなり札幌の郷土史研究を始めました。

そして1998年に清田小学校の校長に就任したのをきっかけに、清田地域（昔のあしりべつ地域）の歴史調査を本格化します。

厚別（あしりべつ）地域は昔、月寒村あるいは豊平町のはずれの集落だったため、詳細な歴史は未詳の状態でした。了寛さんはそこに光を当て、幕末から今日に至る清田の歴史を明らかにしようと考えました。

北大図書館、道立公文書館、道立図書館、札幌市公文書館、札幌中央図書館などに足を運び、清田地域に関する歴史資料の収集に努めました。その結果、昔の清田の地名である「厚別（あしりべつ）」の語源と由来の解説など今まで知られていなかった幕末から現代に至る150年以上の清田地域の歴史をかなり発掘・解明しました。

これらの研究成果は、研究冊子（シリーズ「清田発掘」）としてまとめ、これまでに100冊に達しています。これらはすべてあしりべつ郷土館に置き、閲覧可能にしています。

また、あしりべつ郷土館ホームページでも「きよたのあゆみ」として公開しており、こちらは70本の郷土史の話が閲覧可能です。しかも、毎月、1本の割合で追加しています。

了寛さんは調査研究だけでなく「郷土史の語り部」としても活躍してきました。2019年にあしりべつ郷土館運営企画委員に招かれ、子供たちや大学生、一般社会人等に向けて歴史講座、出前講座、まち歩き講座などで清田の歴史を語り続けてきました。

あしりべつ郷土館は、清田区内の町内会（町内会連合会）が自主運営していますが、了寛さんは、その学芸員的立場で、郷土館の学術的価値のアップを支えてきています。

こうした活動が関係者の目にとまり、今回の表彰につながりました。札幌市文化財課と札幌市教委が了寛さんの研究と普及活動を高く評価し、北海道文化財保護協会に推薦しました。了寛さんは「地域の皆さん、関係者の皆さんに助けられ、続けられました。この受賞を励みに、さらに研究を深めて参りたい」と述べました。

今年の功労者表彰は、了寛さんと、深川市の伊藤勝文さん、別海町の川村俊也さんの3名のみが表彰されました。



昔の農業用水路「吉田用水」跡で児童たちに現地説明をする了寛さん（右端）=北野3条3丁目



表彰式で受賞の挨拶をする了寛紀明さん
=2025年11月7日、かでる2・7

二里塚(里程碑)設置の年代と位置

1. 明治6年「札幌本道」の開削によって設置された「二里標」



左の図は「新道出来形絵図」(北海道大学所蔵)の二里標です。明治6年(1873年)、札幌本道(函館～札幌間)が開削した際、旅人に距離が解かる様に、室蘭まで「里程碑」が設置されました。

但し、この図だけでは、現在の東月寒地域のどこに「二里標」が所在したのか、明確な位置は解かり兼ねます。

絵図の川は、現在のラウネナイ川と思われます。里程碑は、川の東側(千歳側)に設けられた事は特定できますが、どれ位離れた箇所に建てられたのか未詳でした。

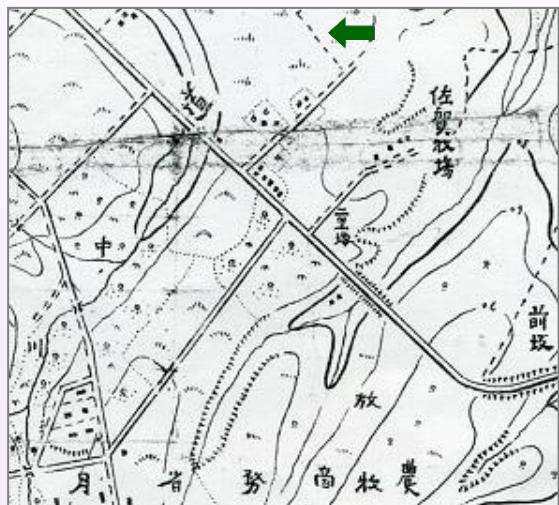
2. 明治13年、ペンキ塗りの「二里塚」標柱を設置

東月寒の里程碑については、『二里塚の百年』(昭和53年10月発行) <P141>に、「明治天皇本道御巡幸に先だち明治十三年札幌から室蘭迄三四里を測量し、一里塚ごとに六寸角の長さ六尺の角材に白ペンキの地に何里塚と書いた標柱を立てた。」と記され、写真の添付があり、現「農業研究センター」の動物衛生研究所がある入口の土手に「里程碑」が設置されていたとの説明があります。

明治13年(1880年)、二里塚の里程碑は、ラウネナイ川の西側に新設された事となります。

(注) : ペンキ塗りの里程碑は、一里塚(美園)・三里塚(平岡)にも在ったとの古老談があります。

3. 明治43年頃、「歩兵二十五聯隊製圖」の「二里標」



左図は、月寒「歩兵二十五聯隊製圖」(明治43年3月1日印刷)の部分図です。(道立図書館所蔵)「二里標」が記されています。地図の記載が詳細となり、里程碑の位置は、現在の「月寒温泉」の辺りであった事が判明できました。

また、「各課合評書類綴 明治十四年十一月十五年至ル」(簿書3864・道立公文書館)に添付の「月寒村局部之図」にも、ラウネナイ川の東側(吉田川寄り)の地に「二里標」が記してあります。

明治6年設置の「里程碑」は、明治43年頃まで、各地点に所在したと特定できそうです。ですから、先のペンキ塗り標柱の設置年・明治13年と、整合性が取れない状況となりました。

4. 「ペンキ塗り里程碑」の年代の特定

明治6年設置の里程碑は、約一間(約1.8m)四方の土台の上に立てられました。明治13年迄の7年間で六寸角の標柱が朽ちるとはが考えられません。ペンキ塗りの里程碑は、土手や道路脇に杭打ちしていた様な状態ですから、年を経てから行った造作であろうと推察しました。

そこで、仮説(検証が必要です)として、明治44年(1911年)に東宮殿下(後の大正天皇)が行啓され、「種牛牧場」(現農業研究センター)を訪問されております。その際に里程碑の標柱を更新したのではないかと推測しました。ペンキ塗りの一里標から三里標の里程碑をめぐる背景・要因は、未詳のままです。発掘・解明が必須な案件事項となっております。

(了寛 紀明)

残念な三里塚碑 位置も説明板も間違っています

平岡南公園（札幌市清田区平岡2条6丁目）前に「三里塚」碑が建っています。この「三里塚」碑は、本来の三里塚とは全く無関係の場所に建っています。説明板も間違っています。

この碑と説明板は2004年、三里塚小学校百周年記念事業協賛会が建てたものです。同協賛会は、「三里塚」があった場所を懸命に調査し、その郷土史発掘の努力は称賛に値するものです。しかし、今では、この説明板の内容をひっくり返す事実が多々明らかになっています。

三里塚（三里標）は明治6年（1873年）、開拓使が札幌本道（札幌一室蘭一函館、清田区内は今の旧道）を開削した際に1里（4km）ごとに建てた里程標の一つです。札幌中心部から3里（12km）の標識でした。

開拓使が建てた三里標は、平岡南公園前に建つ「三里塚」碑から約300m里塚方向に下った三里川のほとり（里塚2条2丁目）にありました。これは開拓使の公式記録「新道出来形絵図」にはっきりと書かれている歴史的事実です。

では、なぜ間違った場所に「三里塚」碑は建てられてしまったのでしょうか。実は、「三里塚」碑を建てた三里塚小百周年記念事業協賛会の人たちは、明治6年に開拓使が三里川ほとりに三里標を建てたという歴史的事実を知らなかったからです。

協賛会関係者は「『新道出来形絵図』の存在を知らず、明治6年建立の事実も知らなかった」と言います。このため、古の記憶と話から「三里標は今の平岡2条4丁目の旧道角地にあった」と認識していました。

このため三里塚小百周年協賛会は「三里塚」碑をこの平岡2条4丁目に建てようとしたが、周囲が民地のため諦め、市有地の平岡南公園に設置したという次第です。

三里塚小百周年協賛会は、この平岡にあった三里標は明治13年（1880年）に建てられたと考えました。その根拠となるのが、昭和53年（1978年）に発刊された「二里塚の百年」（にりづか開基百年行事実行委員会発行）の記述です。そこには「明治天皇本道御巡幸に先立ち明治13年、札幌から室蘭まで34里を測量し、何里塚と書いた標柱を立てた」とあります。二里塚は今の月寒東です。この本から三里標も明治13年に建てたのだろうというわけです。ただ、これを裏付ける一次資料はなく、はっきりしません。この平岡2条4丁目にあった三里標は後年、建て替えられた三里標の可能性がありますが、はっきりしたことは分かっていません。

平岡にあった三里標は、開拓使が明治6年に建てた三里標から1000mも札幌寄りです。そこは三里塚ではありません。この建て替えられたと思われる平岡の三里標は、終戦後の昭和20年代まであったといいます。それで古の方の記憶に残っていたのです。

平岡南公園前の「三里塚」碑の説明文も間違っています。説明文によれば、三里標は「明治14年の明治天皇北海道御巡幸に先立ち」「石碑が建つ現在地より約700m西より（札幌寄り=平岡2条4丁目）に設置された」と書かれています。

明治6年に開拓使が建てた三里標のことは全く書かれていないのです。三里塚という地名（昭和19年、三里塚から里塚に改称）の根拠は、明治6年設置の三里塚（三里標）だったのに、全く触れられていないのは致命的です。ホームページ上には、三里塚は「平岡南公園にあった」「平岡2条4丁目にあった」などの誤情報が拡散しています。三里塚碑を三里川ほとりに移し、説明板も早急に書き直したいものです。

（川島亨）



平岡南公園前に建つ三里塚碑と説明板



「新道出来形絵図」に描かれた三里塚。
三里川のほとりに三里標が建っている

巡幸に先立ち明治13年、札幌から室蘭まで34里を測量し、何里塚と

書いた標柱を立てた」とあります。二里塚は今の月寒東です。この本から三里標も明治13年に建てたのだろうというわけです。ただ、これを裏付ける一次資料はなく、はっきりしません。この平岡2条4丁目にあった三里標は後年、建て替えられた三里標の可能性がありますが、はっきりしたことは分かっていません。

平岡にあった三里標は、開拓使が明治6年に建てた三里標から1000mも札幌寄りです。そこは三里塚ではありません。この建て替えられたと思われる平岡の三里標は、終戦後の昭和20年代まであったといいます。それで古の方の記憶に残っていたのです。

平岡南公園前の「三里塚」碑の説明文も間違っています。説明文によれば、三里標は「明治14年の明治天皇北海道御巡幸に先立ち」「石碑が建つ現在地より約700m西より（札幌寄り=平岡2条4丁目）に設置された」と書かれています。

明治6年に開拓使が建てた三里標のことは全く書かれていないのです。三里塚という地名（昭和19年、三里塚から里塚に改称）の根拠は、明治6年設置の三里塚（三里標）だったのに、全く触れられていないのは致命的です。ホームページ上には、三里塚は「平岡南公園にあった」「平岡2条4丁目にあった」などの誤情報が拡散しています。三里塚碑を三里川ほとりに移し、説明板も早急に書き直したいものです。

札幌本道歴史探訪バスツアーを実施 札幌中心部から島松まで



清田区民センターとあしりべつ郷土館は2025年6月21日、札幌中心部から島松まで、かつての札幌本道（現国道36号線のルーツ）の「里程標」（明治期に建てられていた1里=4kmごとの標識）をめぐる歴史探訪バスツアーを実施しました。

札幌本道とは、開拓使が明治6年（1873年）に開削した函館から札幌（森-室蘭間は海路）までの北海道最初の幹線道路（馬車道）で、清田区内は今の「旧道」（北野-里塚）に当たります。札幌本道のうち札幌-室蘭間は「室蘭街道」とも呼ばれ、国道36号のルーツです。



北海道里程元標（モニュメント）前で=創成橋たもと

約50人が参加。北海道里程元票（札幌市中央区南1条東1丁目創成橋たもと）から、一里塚（月寒）2里塚（月寒東）、三里塚（里塚）、四里塚（大曲）、五里塚（輪厚）、六里塚（島松）のかつて里程標があった場所を辿りました。

バスの車中や、里程標があった付近などで降車しては、あしりべつ郷土館運営企画委員の了寛紀明さんらが付近の歴史エピソードなどの興味深い話をしました。

朝から夕方まで一日かけた歴史探訪バスツアーでしたが、参加者は「とても面白いツアーでした」「知らなかったことが多く、興味深かった」など感想を述べていました。

郷土館の展示品紹介 プラオ（プラウ）

外国から導入された代表的な畜力農機具。大型のものは2~3頭の馬に曳かせて荒地の開墾に用いました。



プラオ（プラウ）

写真のプラオは中型で、すでに開かれた田畠の土を起こすのに用いられました。清田区はかつて農村でした。あしりべつ郷土館は、清田区内で使われた様々な農機具を展示しています。

寄贈資料

以下の資料のご寄贈がありました。
ありがとうございます。
(2025年4月~12月)

- 丹野勝氏「札幌文庫」25巻~100巻ほか
- 了寛紀明氏「清田発掘」ほか
- 増田壹英氏「福住のあゆみ」
- 永山伸治氏「DVD 弾丸道路物語」
- 千島美絵子氏 五月人形（子供大将飾り）
- 亘信夫氏「北海道における明治初期の木橋」
- 山口幸一氏 清田団地一覧地図（昭和43年）
- 工藤隆夫氏 みの、わらぐつ ほか



三里塚歴史さんぽ



三里塚歴史さんぽの様子

里塚・美しが丘地区センターが2025年10月10日、あしりべつ郷土館の協力で、まち歩き講座「三里塚歴史さんぽ」を開催しました。

21人が参加し、あしりべつ郷土館運営企画委員の了寛紀明さんと川島亨さんの歴史解説付きで、平岡南公園（平岡2条6丁目）前の三里塚碑から三里塚公園（里塚2条6丁目）まで地域の歴史に触れながら旧道を歩きました。三里塚碑については、3面の「残念な三里塚碑」をご覧ください。

利用案内

- 開館日 水曜日・土曜日（10時~16時）
- 入館料 無料
- 場所 札幌市清田区清田1条2丁目 5-35
清田区民センター2階
- 運営主体 清田区内の町内会連合会でつくる運営委員会（区民による自主運営）

アクセス・マップ

